

【面接官の印象】

1. 外国人面接官の印象

さわやかな感じ、30歳代位。

笑顔で話を聞いてくれ、フレンドリーな感じ

2. 通訳ガイド

笑顔で対応してくれ、緊張をほぐしてくれる感じ。

冒頭に、英語で氏名、住んでいる所、生年月日に関して英語で聞かれました。きれいな英語でした。

途中での発言は一切ありませんでしたが、終始笑顔で話を聞いてくれました。

3. 通訳試験について

《出題された日本文》

神社に行くと、最初に見えるのが鳥居です。鳥居を入ると聖域になります。鳥居の語源は、「通る」、「入る」から来た説と、古事記の「鳥の止まり木」から来た説があります。鳥居の材料は様々で、神社により異なります。

《自分の解答》

試験室の前の椅子に座って一人で待ちました。すぐにTGが顔を出し試験室の中に入るように促し、中に入るとNSはすでに席についています。面接官の前にはテーブルがあります。受験者の席は3つの椅子が並んでいて、自分は真ん中の椅子に座りました。椅子のみでテーブルはありません。左側の椅子の上に紙挟みが置いてあり、A4用紙が一枚挟まれています。ボールペンも4本ほど置いてあります。

TGが問題を読み上げました。速度は朗読の速さで、早口ということではありませんが、ゆっくり読み上げてくれるという感じではありません。メモを取りましたが、重要単語を書き取るのが精いっぱい、全体の文の流れは記憶に頼ることとなりました。

解答は、日本文の流れに沿って英語に直していきました。「通る、入る」は一瞬悩みましたが、日本語をそのまま使いました。そのあとで、蛇足かもしれませんが、英語の意味も添えました。

4. 2分間プレゼンテーションについて

《出題されたトピック》

- ① 江戸城
- ② ひな祭り
- ③ 日本の世界遺産

《選択したトピック》

『江戸城』

《発表した内容》

NS から 3 枚のカードを手渡され、トピックを選ぶのに 30 秒ほど考える時間が与えられました。選んだトピックを面接官に伝える場面はなく、すぐに TG がら「では始めてください」と言われたので、プレゼンテーションを始めました。

私のプレゼンテーションの内容は次のような内容で話しました。

- ・江戸城についてプレゼンテーションをする。
- ・江戸城は、江戸幕府の本部が置かれた。
- ・徳川家康が江戸幕府を開設し、江戸城は将軍の居住地となった。
- ・家康は、関ヶ原の戦いに勝利し、日本を統一し、平和が訪れた。
- ・江戸幕府は 260 年以上にわたって続いた。
- ・明治維新で徳川慶喜が大政奉還し、その後、天皇が東京に来て、江戸城に居住した。
- ・今の皇居は、昔の江戸城で、今も天皇陛下が住んでいる。
- ・皇居には半蔵門があり、この名前は忍者の服部半蔵からとった。
- ・服部半蔵は徳川家康に仕え、その貢献から半蔵門の名前がついた。

スピーチ終了後、「2 分丁度」と TG が言われましたが、感覚的には、2 分以上話したような気がします。最後の服部半蔵の話は、言う予定はなかったのですが、面接官から時間オーバーの言葉がなかったので、付け加えてしまいました。2 分間より長く話した気がします。内容も、史実と違うことを話しているかもしれませんので、やはり蛇足だったような気がします。

5. 質疑応答について

NS から以下のような質問がされました。

NS	服部半蔵の功績は何か。
NS	明治維新で、なぜ幕府は滅びたのか。
NS	明治維新で、どうやって権力が天皇に移ったのか。
NS	明治維新の時に天皇はどこに住んでいたのか。
NS	現在の皇居は、国事行事等のセレモニーの時に使われるのか。
NS	天皇は今も皇居に住んでいるのか。
NS	皇太子も一緒に皇居に住んでいるのか。
NS	皇居の中に入ることはできるのか。

6. 試験を終えての感想

10分間の短い時間ですので、あっという間に過ぎてしまいました。思い返してみても、何を話したのか、どのようなトピックがほかにあったのか、ほとんど思い出せない状況です。自分で選択したトピック以外の2つに関しては、実はすっかり忘れていたのですが、ほかの人の体験談を聞いて思い出しました。自分が話した内容についても覚えていません。

当日は面接ということで、スーツで行きましたが、会場ではかなりラフな服装の人もいてまちまちでした。受付後は、情報が外に漏れないように徹底しているように感じました。トイレへ行くのも管理下におかれます。通信機能、録音機能のある機器は電源を切って鞆にしまうようにという注意がかなり頻繁に行われうるさく感じましたが、仕方のないことなのでしょう。